

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木支部会報 2008.03.31

NO.8

- 『日野宜千先生、日本学校教育相談学会名誉会長就任祝賀会』
- 第15回、第16回栃木支部研究発表会報告 コメンテーター 毎澤 典子先生(栃木県カウンセリングセンター)
- カウンセリング特別講座・合同研修会 「アドラー心理学」 和井田 節子先生(中央学院大学非常勤講師)
- 精神医学特別講座 「思春期の精神病理」 比嘉 千賀先生(ひがメンタルクリニック所長)
- 学会研修プログラムによる基礎研修報告
- 発達障害特別講座 「発達障害児への対応」 服部 美佳子先生(作新学院大学大学院心理学研究科)
- 栃木支部事務局からのお知らせ

○ 『日野宜千先生、日本学校教育相談学会名誉会長就任祝賀会』

日野先生からのメッセージ

『感謝、感謝の祝賀会』

去る2月22日、私の日本学校教育相談学会名誉会長就任祝賀会を開いていただいた。同学会の会長就任記念会を開いていただいたのが4年前、その間、三千人を擁する学会のトップとしていくつかの事業を進めて来た。

「学校教育相談ハンドブック」の刊行による、学術団体として学会の理論的基礎作り、委員会を中心とする学会の運営とそれを支える財政的基盤の確立のための会費値上げ、さらに、新しい方向を求めるプロジェクトチームの発足などである。

やれなかったことや、やりたかったことはいくつもあったが、終わった。

私の長年の基盤である、栃木県でお祝いの会を開いていただいたことは、良くやったということだと自惚れていいのか、ご苦労様というねぎらいととっていいのかはともかく、私とすると、感謝、感謝であり、心置きなく、舞台を降りられる心境でもある。

宴もたけなわ、花束贈呈を受けマイクに向かう日野先生は、ほろ酔い気分の赤ら顔のなかにも、終始ご満悦の笑みを浮かべられお祝いに駆けつけた方々にお得意の身振り手振りを交えながら「教育相談」の熱き思いを万感込めて語られました。先生は平成15年から18年までの2期4年間、学校教育相談学会の会長を務められました。

昨年はその功績が認められ、同学会の名誉会長に就任されたことは皆様周知の通りです。長年の労と先生の埼玉転居のお祝いを兼ねて、先生を慕う関係者が会場狭しと多数集まり、思い思いに先生の席に訪れては酒を酌み交わし、記念写真や昔話に話を咲かせるなど喜びと笑みが絶えない祝賀会となりました。

2.26 事件の年にこの世に生を受け、「東京大空襲」をきっかけに疎開。戦後早稲田大学を卒業後、河内村の小学校を皮切りに中・高校の教諭を歴任した先生の学生時代の精悍な姿など、誕生から現在までの生い立ちが写真を交えて披露されました。昭和48年には東京教育大学心理学科に留学し、教育研究所の原照明先生と大野清志先生のスーパーバイズを受けたことが転機となり、「教育相談」の道に専念してこられた様子なども伺い知る事ができました。

また、親交の深い下司先生と「カウンセリング養成講座」を立ち上げた話や、「栃木県カウンセリングセンター」の設

立、日頃聞けない秘話やご家族の様子が語られると「なるほど、なるほど」とうなずく声があちらこちらで漏れ聞こえるなど盛況の中にも心温まる催しとなりました。今後益々の先生のご活躍をご期待申し上げます。

(馬場 友治 記)



○ カウンセリング特別講座

演題 「アドラー心理学」

講師 和井田 節子先生

(中央学院大学非常勤講師)

平成 19 年 12 月 2 日(土)教育会館 5 階大ホールにおいてカウンセリング特別講座が行われた。

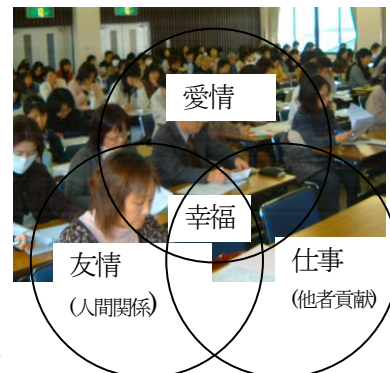
まず先生は相談関係者と教員用の 2 種類の準備をしてきたということで会場の方々に相談関係か教員かを尋ね、教員が多いため教員向けの「アドラー心理学」を中心に話を進められた。

まず先生は「アドラー心理学」の概論で「人間は目的に向かって行動する」と考えるといい、3つのライフタスクを達成しなければならない。一つでもかけると不幸になっていき、逆に一つでもうまく動き始めるといい影響が出てくる。

問題を抱えた子どもたちは、たいていこれらのタスクどれかがうまくいっていない。どのタスクが欠けているのかを頭に入れてそれを補うつもりで援助すると、解決に向かって動き始めることが多い。また、アドラー心理学の相談活動への生かし方を例に挙げて分かりやすく話をしてくださいました。

その後受講者 3~4 人でグループを作り感想、質問など話し合いをし、各グループが質問や感想を発言して先生はそれを板書し、それぞれの質問に丁寧に答えてくださりより深くアドラー心理学を理解することができたのではないのでしょうか。

講義の中で先生が終始「共同体感覚」の育成を言われていました。会場はその言葉通り共同体感覚を感じる雰囲気ではなかったように感じました。そして講義が終わったあと「アドラー心理学」興味を持ち勉強し更に理解を深めたいと思った人は多いのではないのでしょうか。



3つのライフタスク



(齋藤 誠一郎記)

○ 精神医学特別講座

演題 「思春期の精神病理」 講師 比嘉 千賀先生

(ひがメンタルクリニック所長)

平成 19 年 12 月 2 日(土)教育会館 5 階大ホールにおいて、日本学校教育相談学会栃木支部、栃木県教育研究所主催各種講座合同のカウンセリング教養講座が行われた。

先生の用意されたレジメは A4 版が 5 枚、B4 版が 3 枚と大変ボリュームがあり、講座は A4 版を中心に話が進められた。先生のクリニックにこられている方々の症例をあげて、実に分かりやすく話をしてくださいました。

リストカットのところでは、会場からその症例をあげられている方々の話を聞き、それぞれの症例に合わせての対応を話してくれた。よくある事例においては会場で抱えている方に挙手をしてもらい会場を巻き込んで講座が進んでいった。金子賢先生曰く「レジメには思春期の精神病理について本当にたくさんの方が書いてあり、盛りだくさんの内容である」とのことであった。その言葉の通り、講座は受講されている方々に何か 1 つでも多く吸収してもらいたいという先生の気持ちが溢れ、受講者は真剣に耳を傾け、ノートにペンを走らせていた。それに答えるかのように終了時間を少し越えるほど講座は続いた。

時間の関係で質問はできなかったが、先生は質問があればいつでも来てほしいとってください、きっと受講者の方々は心強い気持ちを持っていかれたのではないのでしょうか。

(齋藤 誠一郎記)

○ 『学会研修プログラム基礎研修』 報告

去る平成19年12月22日(土)～24(月)の3日間に渡り、熱のこもった講座が催された。

初日のSession1では、TCA理事長の日野先生が「学校カウンセリングの今日的課題」を講義された。特に注目すべきは、特別支援と教育相談のお話だった。教育相談にもアセスメントを充実させる必要があることを力説されていた。

Session2では、塩谷教育事務所でご活躍の築瀬先生が、ご専門のSGEを教えてくださいました。グループエンカウンターの時計の課題は一気に盛り上がり、受講生の距離が縮まった。

2日目のSession3は、日本学校教育相談学会認定学校カウンセラー・特別支援教育士の原田先生が「発達障害と教育相談」と題して、豊富な資料を基に気になる子への支援について課題と問題点を指摘していただきました。原田先生が実施しているチーム支援会議は特筆に価する。



Session4では、明治学院大学教授の下司先生が「かわり技法と傾聴技法」について丁寧な演習をしてくださいました。“聞く”と違って“聴く”とはどういうことなのか。どこまでも考えさせられる。

3日目のSession5では、「問題行動と教育相談」と題して、那須教委の小齋先生が講義された。自殺・リストカット・携帯電話によるいじめなど、今の時代を写し取っている問題行動を示唆ある言葉で解説していただきました。最後には、恒例の「無縁坂」を独唱された。

Session6では、県教育研究所相談部長の丸山先生が、「保護者との面接演習」と題して“良い関係づくり”をするためにロールプレイングの技法を使って指導していただきました。中には、突っ込みの激しい受講生(?)もいて、スタッフがたじたじの場面があった。
(八島 禎宏記)

○ 発達障害特別講座

演題 「発達障害児への対応」 講師 服部 美佳子先生

(作新学院大学人間文化部 大学院心理学研究科)

平成20年2月23日(土)、教育会館1階中会議室において、作新学院大学大学院心理学研究科の服部美佳子先生をお招きして、発達障害特別講座が行われました。

講座は、発達障害の分類と各障害児が示す特徴を説明するところより始まりました。それぞれの児童・生徒が示す医学的な特徴について、アセスメントを含めた「障害児の理解」を多面的にまとめて理解しやすく話されました。ここまでの内容でも発達障害児への対応を考えるのに十分であったと思いますが、服部先生はこれだけに留まらず、『障害児を支援する側』の立場からの問題の把握や支援計画、支援のポイントや環境の調整、等を「学校等における基本的な支援」として詳しく説明されました。特に対象者別にまとめられた支援のポイントや告知の問題等、障害児を支援する学校側でもよく問題になる項目まで話されました。その内容は障害者や保護者の側だけでなく、支援する学校の現場をよく理解したお話であり、学校現場でもすぐに役に立つ講座であったと思います。講座を受講して『やっと、医学現場と教育現場の架け橋』が掛かりつつあると感じさせてくれた講座でした。是非、また先生のお話を聞く機会があればと思いました。

(藤浪直紀 記)

○ 栃木支部事務局からのお知らせ

平成20年度は、二年に一度の「相談学会紀要」を発刊する年になっております。

日頃の相談活動の実践に関する研究発表の機会にして頂きたいと思います。「相談学会紀要」への原稿掲載は学校カウンセラー資格要件の一つになりますのでご注意ください。

申し込み等、9月中に行います。ふるってご応募くださいますよう、よろしく、お願い申し上げます。

- 1 原稿内容 教育相談にかかる実践及び研究 例・・・事例研究、学級経営、現場教育など
- 2 原稿枚数及び様式 パソコン（ワードまたは一太郎）打ち出し

原稿枚数・・・1頁～5頁【1頁（横45文字×縦38行）】

※ 厳密でなくても結構ですが、上記の枚数の範囲で、ページの区切りがほぼ良いように原稿をまとめて下さい。

※ 5頁を越える場合も可能ですので、事務局にご一報下さい。

様 式・・・横書き（横45文字×縦38行・・・1頁）

タイトル・・・6行取り（勤務先名、氏名を含む） ※資料等は適宜スペースをお取りください。

- 3 執筆の申し込み

※ おおよその原稿分量を掌握するため、執筆を希望する方は9月末日までに事務局までご一報ください。

※ 実際にはデータの入ったリムーバブルディスク、フロッピーディスク、CD-ROMその他で提出していただきますので、ご準備下さい。

※ 提出したデータは後日、返却致します。 以上

日本学校教育相談学会栃木支部

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館内

栃木県教育研究所相談部 日本学校教育相談学会事務局宛

TEL 028-621-7274 FAX 028-627-5682（事務局 谷津）

（発行責任者 丸山 隆 / 広報担当者 藤浪 直紀）